

定量的マクロ後半課題

1.

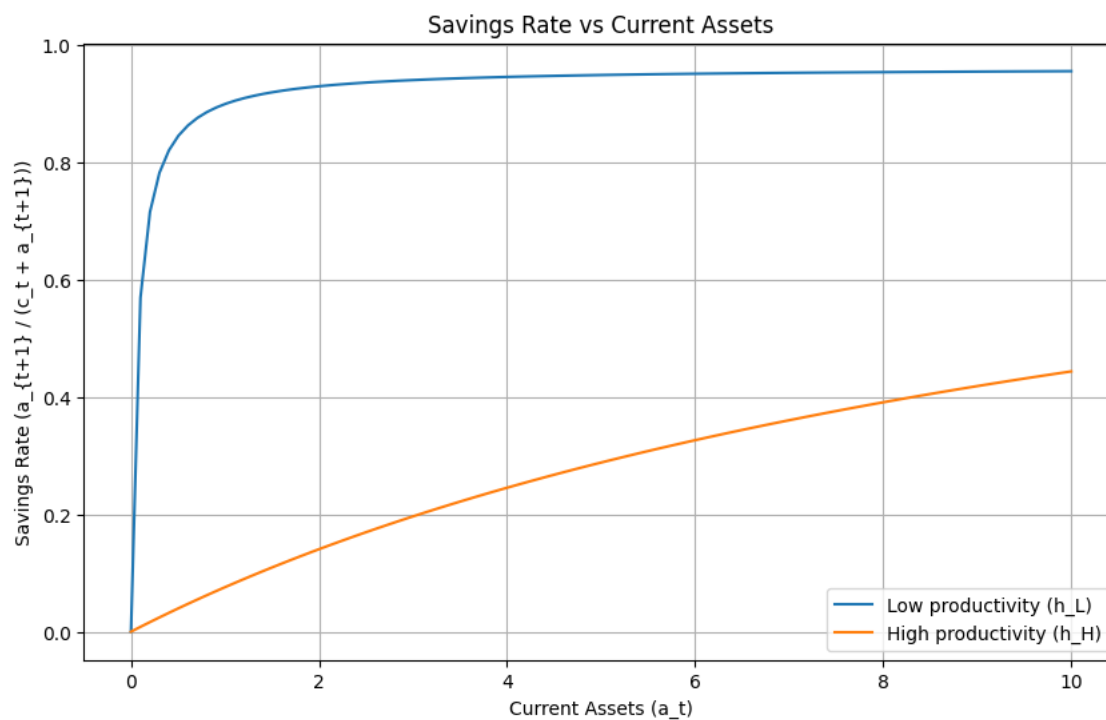


図 1. 資産と貯蔵率

貯蔵率は現在の資産の「増加関数」といえる。しかし、単調増加ではなく、資産が増えるほど増加率は逡減している。貯蔵率が現在の資産の増加関数となっている理由は、現在の資産が多いほど、消費活動が活発になり、かえって現在の消費の限界効用が低下する。さらに将来のリスク回避のため、消費より貯蓄を優先するようになるため、結果的に増加関数になるのだと考えられる。

2.



図 2. 資本所得税を導入した際の資産と貯蔵率

資本所得税を導入したとき、高い生産性のグラフに着目すると、貯蔵率は導入前と比較して貯蔵率は低下すると読み取れる。その理由と家計は資本所得税が導入された場合、将来に貯蔵の利子所得として得られる額が減少するため、現在の消費をより増やし将来に対する貯蓄を減らす傾向にあるためだと考えられる。

3.



図 3. 政府からの一括補助金を導入した際の資産と貯蔵率

政府からの一括補助金を導入したとき、特に生産性が低い時の曲線に着目すると、貯蔵率は導入前と比較して減少する傾向にあり、資産が低い時ほどその減少が顕著に確認できる。この理由として考えられることは、家計は政府からの補助金を得ることで可処分所得が増加し、その分消費を増やす傾向にあるためだと考えられる。そして補助が一定額であるため相対的に、貯蓄が低いほどその効果は大きく、貯蓄率の減少が大きいと考えられる。

4.

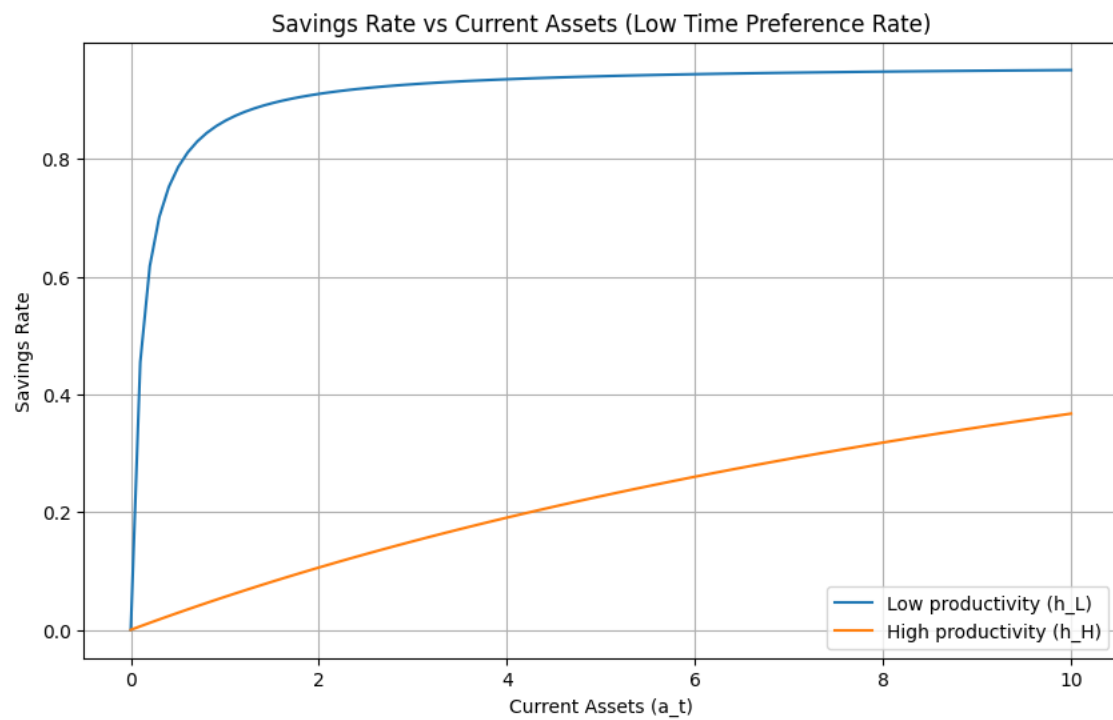


図 4. 資産と貯蔵率（時間選好率 $\beta = 0.1$ ）

時間選好率を $\beta = 0.98$ から $\beta = 0.1$ に低くしたとき、低くする前と比較して貯蓄率は減少すると考えられる。特に、高い生産性の曲線を見ると確認できる。その理由として、時間選好率が低い場合、現在の貯蓄が将来の貯蓄に与える影響が小さいと考えているため現在は消費により費やす傾向があり、その分貯蓄率が減少すると考えられる。